

三菱マテリアル

ソナ桶川プレジジョン



会社概要

三菱マテリアル株式会社 (Mitsubishi Materials Corporation; 以下「三菱マテリアル」と表記) は、金属やセラミックを製造する総合素材メーカーである。同社の設立は1950年で、主な事業は以下の通りである。

- ・ 自動車関連製品
- ・ エレクトロニクス関連製品
- ・ 土木・建築材料製品
- ・ 貴金属製品

2004年－2005年度における同社の連結売上高は92億ドル、従業員数は19,638人である。

インドにおける三菱マテリアル

ソナ桶川プレジジョン鑄造 (Sona Okegawa Precision Forgings Ltd. — SOPL; 以下「ソナ桶川」と表記) は、ベベルギヤやピニオンといった精密鑄造品を製造・販売するメーカーである。ソナ桶川は、日本の三菱マテリアルと提携関係にあり、出資比率は60:40の合弁会社である。



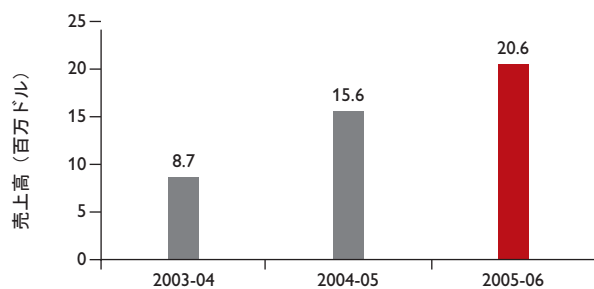
同社は、インドのソナグループの一部門として1998年4月に設立され、以下の製品を製造・販売している。

- ・ ベベルギヤおよびピニオンといった精密鑄造品
- ・ ディファレンシャルケース
- ・ シンクロナイザーリング

ソナ桶川の生産工場はデリー近郊のグルガオンにあり、現在、同工場では、生産能力を600万基から1,000万基に拡大する計画を段階的に進めている。その他には2005年に操業を開始したプネ・ギヤ工場がある。プネ工場は、インド西部および南部地域での事業拡大を図る目的で新設された。

同社の2005年－2006年度における売上高は2,060万ドルで、2009年までに6,500万ドルの売上高を目標としている。

ソナ桶川の売上高 (2004年－2006年)



出所：会社情報

ソナ桶川のインド国内における主要顧客には、大手乗用車メーカーのマルチ・ウドヨグ、タタ・モーター、マヒンドラ&マヒンドラがある。タタ・モーター、マヒンドラ&マヒンド



ラ、アイシャートラクター、アイシャーマーター、パンジャブトラクター、TAFE、インターナショナルトラクターは、トラクターおよび商用車セグメントの大手顧客である。現在、ソナ桶川はパートナー企業である三菱マテリアルと、米国のケース・ニューホーランドに製品を輸出している。

成功の要因

三菱マテリアルの支援

三菱マテリアルとの合併会社である同社は、コスト競争力の高い製品を容易に生み出すことが可能であり、さらに、三菱マテリアルが誇る広範な自動車関連製品の存在が、ソナ桶川製品の強力な技術的バックボーンとなっている。

資金的な支援

工場の拡張に親会社の資金的なサポートが得られるという利点がある。現在、親会社の三菱マテリアルでは、2005年に操業が開始された新工場で生産を開始するための資金投入を行っている。

今後の計画

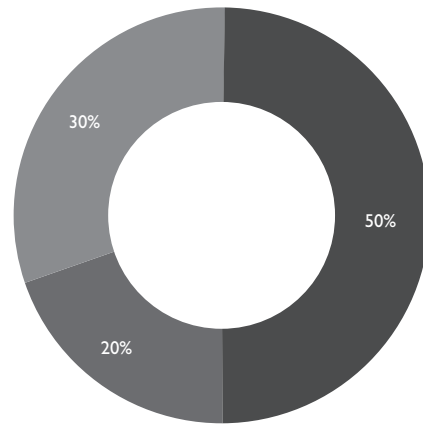
グローバル市場への進出

設立当初はグローバル市場への輸出を控えていたソナ桶川も、ここへきて軸足を移し、輸出拡大の動きをとり始めた。同社では売上高における輸出比率を、今後数年で50%まで高めることを目標としている。

将来の投資計画

ソナ桶川では2006年度に総額1億3,110ドルの資本投入を見込んでいる。

分野別投資比率



- プネ工場の輸出向けユニット
- 新染色工場
- グルガオン工場

出所：Blonnet

上記の数字が示す通り、6,550万ドルがマハラシュトラ州における輸出専門工場（Export Oriented Unit: EOU）への設備拡張に振り向けられ、新設の染色工場に2,620万ドル、グルガオンにあるギヤ工場の生産設備拡大に3,930万ドルが投じられる予定である。プネの輸出専門工場では生産台数1,000万基を目標とし、2007年2月までに操業を開始する計画である。これらの設備投資の結果、同社の翌年以降のギヤの総生産能力は、現在の600万基から2,000万基に拡大されると見込まれている。